



2016 年 11 月 14 日

内閣総理大臣 安倍晋三 様
外務大臣 岸田文雄 様

京都 YWCA
会長 弘中奈都子
総幹事 山本知恵

「核兵器禁止条約」制定交渉開始決議に反対した日本政府に対しての

抗議 声 明

去る 10 月 27 日、核兵器を法的に禁止する初めての条約の制定を目指す決議案が、国連総会第一委員会で採決にかけられ、123 か国の賛成多数で採択されたことは、平和を願う多くの人たちの努力によってなし得た喜ばしい一歩でした。それにもかかわらず、被爆国である日本の政府は、この採決に反対票を投じました。ヒロシマ・ナガサキでの被爆を経験した日本の政府が取るべき役割は、核兵器の脅威と被害の事実を全世界へ伝え続け、核兵器廃絶に向けて国際社会をリードすることであり、米国の「核の傘」に守られ、米国の軍事戦略に追随するために核廃絶の前進を妨げることではありません。日本 YWCA は、反対票を投じた日本政府に対し、強く抗議します。

日本 YWCA は、1970 年より「『核』否定の思想」の立場に立ち、核兵器廃絶を訴えてきました。それは、「核」の文明がこの世界にもたらす環境破壊と人間破壊の道へ突き進むことへの警鐘であり、「豊かさ」を求める生き方の問い直しでした。以来 45 年間に亘って毎年「ひろしまを考える旅」を実施し、中高生たちを中心に多世代が共に被爆者の言葉に耳を傾け、被爆の跡地を歩き、見て・聴いて・感じ・考えるプログラムを継続してきました。そこで出会った被爆者お一人おひとりの声は、まさしく「核廃絶への道を拓いていく」強い決意であり、後の世の者たちが同じ過ちを繰り返さないようにという深い祈りでした。

2015 年に開催した世界 YWCA 総会では、世界 120 カ国の YWCA が、「核兵器／原子力エネルギーを同等に否定する」決議を採択しました。広島、長崎そして福島の人たちの声が、YWCA に連なる世界の女性たちを動かしたのです。

広島原爆の碑には、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」と刻まれています。世界中の人々の「核」廃絶の誓いのこの言葉に、日本政府は今一度立ちかえり、核兵器禁止条約の制定を進める立場で今後の論議に参加することを強く求めます。

以上